

科目名	人体構造機能学Ⅱ（神経系）	担当教員	鈴木 大輔 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	---------------	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13AC	②					

科目概要	大脳皮質の働き、反射、神経回路を学び、前期に学んだ脳の解剖を機能的に理解する。また感覚器系、内分泌器官について構造と機能を学ぶ
学習目標	脳は反射を含めた神経回路を理解することで、働きが総合的に理解でき、日常生活や臨床で見られる現象を説明することができる。また感覚器系、内分泌器官の知識を深め、学問的な探求心を向上させること

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験 教員担当 項目
1	I：中枢神経	(1) 各論：大脳新皮質（一次と高次）	大脳新皮質の働きを理解する。	
2	I：中枢神経	(2) 各論：高次機能と関連疾患 (3) 各論：大脳辺縁系	高次機能と関連疾患の関係を理解する。 大脳辺縁系の構造と働きを理解する。	
3	I：中枢神経	(4) 各論：脊髄	脊髄の構造と働きを理解する。	
4	II：神経回路	(1) 総論：シナプス	シナプスの構造と働きを理解する。	
5	II：神経回路	(1) 各論：脊髄反射	脊髄反射のメカニズムを理解する。	
6	II：神経回路	(2) 各論：遠心性経路	遠心性経路を理解する。	
7	II：神経回路	(3) 各論：求心性経路	後索路と脊髄視床路を理解する。	
8	II：神経回路	(4) 各論：求心性経路	三叉神経毛体系を理解する。 関連疾患を学ぶ。	
9	III：感覚器	(1) 総論：一般的な感覚器の機能	受容器や神経伝達速度について学ぶ。 感覚の種類について学ぶ。	
10	III：感覚器	(1) 各論：一般知覚	一般知覚のメカニズムについて理解する。 ゲートコントロールについて理解する。	
11	III：感覚器	(2) 各論：特殊感覚	嗅覚と味覚について学ぶ。	
12	III：感覚器	(3) 各論：特殊感覚	聴覚と前庭覚について学ぶ。	
13	III：感覚器	(4) 各論：特殊感覚	視覚について学ぶ。	
14	IV：内分泌系	(1) 総論：内分泌系とは (1) 各論：下垂体ホルモン	内分泌のメカニズムについて理解する。 下垂体ホルモンの働きについて理解する。	
15	IV：内分泌系	(2) 各論：その他のホルモン	一般的なホルモンの作用について理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	<p>ここでの課題は、「授業内容の理解」とします。 それに対して①-④のフィードバックを行います</p> <p>① 授業後の確認テスト ② 次の授業前の簡単な解説（出来が悪い確認テストの問題に対して） ③ 個人的な対応（質問に対する回答や解説など） ④ 期末テスト</p>
教科図書	F.H.マティーニ、他・著『カラー人体解剖学 構造と機能：マイクロからマクロまで』西村書店、2003年
参考図書	なし
学習の準備	<p>予習はしなくてもいいですが、復習は必ず行って下さい</p> <p>講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるように準備をする(90分)</p>
オフィスアワー	<p>月曜日 13時-17時半，水曜日 13時-17時半</p> <p>その他在室時はいつでも可</p>
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	